

編集後記

編集委員を拝命し早3年、相変わらず原稿提出が遅く、皆様にご迷惑をおかけしています。一方、本務(稲担当農業革新支援専門員)では本年産稲作況が「93」と苦難の年となりました。来年こそは平年作と高品質を両得し…と日々奮闘しています。平穏な日々が訪れることを切に願っています。 <岡田 真>

水田作の栽培試験を担当して3年になります。水田では野菜も栽培しています。近年は不良気象により野菜の収穫時期や収穫量が安定しないことが問題ですが、雑草対策もとても重要な問題となっています。野菜は品目により使える除草剤に限られますが、耕種的防除を含めより効果的な防除体系が重要と思いますので今後も本誌等最新の情報収集をしていきたいと思っています。 <内藤健二>

29年4月より、5年ぶりに普及から研究の職場に戻ってきました。私の前任の編集委員だった北見さんと同じ果樹担当で、主にブドウやカキなどを担当しています。作物も果樹も、気象に大きく左右され、作柄の安定性が課題ですが、神奈川産「はるみ」が2年連続で特Aという評価を頂いたことは、当県の栽培技術の安定性を物語るものだと思います。 <関 達哉>

平成29年も5月、7月の高温、8月の低日照、10月の長雨などおよそ平年とはかけ離れた気象でいろいろと悩まされました。毎年、次年度の対策について、いろいろと書かされるのですが、気象についての行きつくところは、「基本技術の励行」、「作物の生育に合わせた管理」。天気のせいにするのは簡単ですが、それでは全く進歩がないので、どのような気象であっても、適切な管理をして、納得のいく収穫を迎えられるようにとお願いしています。 <眞部 徹>

今年度の関東支部研究会で、畦畔草刈機の開発について発表させて頂きました。発表は何度やっても反省点ばかりですね。伝えたいことを伝えるのは難しいですが、自分なりに工夫を重ねていきたいと思っています。30年度の現地検討会は長野県で開催予定です。大嶋支部長と準備をしています。大勢の参加をお待ちしています。 <上原 泰>

今年度から編集委員を務めさせていただいております。採用2年目になってもいまだに、初めての仕事が多くあり、日々新鮮な気持ちで業務に取り組んでおります。来年度には新たな水稻の課題がスタートすることもあり、一層気を引き締めていきたいと考えております。その中で、来年度も編集委員として誠心誠意努めていきたいと思っています。 <向山雄大>

編集委員のようなことはこれが初めてです。こうやって皆さんの協力によってでき上っていくのかと感心しきりです。それにしても、編集後記=年度末=種まき、千葉県は春は早いです。1年が早く追いつかなくなってきました。なんとか仕事の先取りをするようにしていきたいと考えているんですが…。 <林 玲子>

会誌第13号をお届けします。これからも研究と普及との交流や橋渡しの役割を担う場として、雑草に関わる現場の話題、身近な話題などを掲載し、内容の充実を図りたいと考えます。東京の桜(ソメイヨシノ)の開花は平年より9日早まりました。一方、全国各地で大雪による被害が報告されています。気象の変動が著しくなっていると実感するこの頃です。最後になりましたが、そのような中、ご寄稿下さった皆さんに心より感謝いたします。 <大嶋保夫>